

# 令和2年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立錦糸小学校
校長名	伊藤 康次

## 1 本校の学力に関する状況

### (1) 墨田区学習状況調査結果から（平均正答率は、別表参照）

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年において、作文問題の正答率が、昨年度より上昇しているか、全国平均を超えている。</li> <li>・A, B層の割合が増加し、D, E層の割合が減少している。特に国語では、A, B層が約50%から約60%へ増加し、D, E層が約35%から約25%へ減少した。</li> <li>・第3学年以上の全学年において、「数学的な考え方」が前年度より伸びている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・依然として、理科の正答率が低く、特に短答・記述問題の無解答率が高い。</li> <li>・算数科において、「知識・理解」と「技能」の正答率(対全国平均比)がどの学年も低くなっている。</li> <li>・社会科において、「知識・理解」の正答率(対全国平均比)が低い。</li> </ul>

### (2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生のささえ」を肯定的に感じている児童が昨年度に比べて増加している。</li> <li>・ほとんどの学年で「学級の絆」を肯定的に感じている児童が昨年度に比べて増加している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・携帯電話の所持率が高く、学力下位層になるほど使用頻度が高くなっている。</li> <li>・LINE やツイッター上で、仲間はずれにされたり、嫌な書き込みをされたりした経験のある児童がいる。</li> </ul>

### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な感覚を使った学習活動や体験的な活動に対して意欲的に取り組む児童が多い。</li> <li>・伝え合いや話し合い、教え合いといった協働的な学習活動に喜んで参加する児童が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いが強いあまり、教師や友達の話を最後まで聞こうとしない児童がいる。</li> <li>・自分の意見に自信がもてず、発表することに抵抗を示す児童がいる。</li> </ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 探究的、課題解決的な学習を全教科で展開する。

教師が一方向的に教えたり、学習活動を与えたりするのではなく、児童の気付きや疑問を大切に、それを基にした探究的、課題解決的な学習活動を児童とともに作り上げていく。更に、学習活動を進める際に、児童が協働して直面する課題を解決していけるように、授業の改善に努める。

また、協働的な学習を推進するために、国語科を中心に話題のポイントを意識して相手の話を聞く活動を積極的に取り入れて友達などの話を聞き取る力を伸ばすとともに、タブレットPCなどを活用して児童の意見交流が円滑に行えるようにする。

**(2) 理科において、児童の思考の流れを意識した授業づくりを行う。**

教師主導で教科書の内容を教え込むのではなく、次のような学習の流れを大切にする。

- ①単元の導入時に、学習につながる科学的事象に児童が触れられるようにする。
- ②児童の気付き、疑問から学習課題を設定する。
- ③学習課題に対して根拠をもって予想を立てる。
- ④予想の検証方法を児童が考え、その結果を予想する。
- ⑤実験や観察を通して、検証する。
- ⑥検証結果から課題について分かることを考察する。

これら、児童の予想、仮説を基にした実験・観察を通して、理科の基礎学力を高める。また、ふりかえりシートを活用し、既習内容の定着を図る。

**(3) 算数科と社会科において、知識・技能の定着を図る。**

単元の中で適用問題や復習問題に取り組むだけでなく、授業場面や家庭での課題として、復習問題やふりかえりシートに取り組む。

特に、算数科においては、計算コンテストを実施して、四則計算の定着具合を調べ、四則計算を十分にできない児童には、休み時間や放課後を利用して個別の指導を行う。また、水曜日に実施している放課後学習教室において算数の課題を扱うことで、学力下位層が数量についての技能を身に付けられるように指導する。

**3 「令和3年度 墨田区学習状況調査」における目標**

- ・ E層を0にし、D層からC層への割合を増やす。
- ・ 理科の全観点の正答率を全国平均以上にするとともに、目標値の達成を図る。
- ・ 算数科と社会科において、知識・技能の正答率を全国平均以上にするとともに、目標値の達成を図る。